

いわてリハビリテーションセンターは、岩手県看護協会の支援を受けながら、2019年～2021年の3年間、医療従事者のワークライフ・バランス推進事業に参加し勤務環境改善に取り組みました

<p>当院の ミッション</p>	<p>高度で先進的なリハビリテーション医療を追求し、患者さんとともに障害の克服という「治癒」を目指すことにより、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献します</p>
<p>活動の ビジョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織への信頼と働き方の満足度を向上させ、働き続けたい人を増やす ・勤務環境を改善し、高度なリハビリテーション医療に携わる人材育成を支援するとともに、職員を大切にする

☆ 職場の課題解決のため「5つのアクションプラン」で活動しました

プラン1：委員会を毎月開催し、広報活動を通じてWLB推進活動の組織内共有を進めました

No.6
わ(W)ら(L)ば(B)通信
令和2年10月30日発行
WLB推進委員会広報担当

～有給休暇取得について～

2020年も残り約2ヶ月となりました。1年とは早いものですね。
皆さん、今年の有給休暇（年次休暇）取得状況はいかがでしょう？
わらば通信No.4でもお伝えしたとおり、いわてリハビリテーションセンターで働く皆さんには、労働基準法に基づき年5日の有給休暇取得が義務づけられています。
これは働き方改革関連法案のひとつによるもので、労働者がワーク・ライフ・バランスを保つために心身を休める時間を確保することを目的としています。

ここで改めて
有給休暇の年5日のカウントについて確認！

皆はもう5日
休んだかな？

令和2年1月1日時点で在職していた職員の皆さん

令和2年1月1日から
令和2年12月31日の間に5日

令和2年度入職の皆さん

令和2年4月1日(入職した日)から
令和2年12月31日の間に5日

半日の有給休暇は、年5日の有給休暇取得の対象になるよ！
ただし、時間年次の積み重ねは対象にならないので気をつけてね。

年が明ける令和3年1月1日にはまた新たに有給休暇が付与されて、年5日のカウントもリセットされるよ。
毎年6月～10月の夏季休暇と併せて、計画的・積極的に有給休暇を取得していこう！

有給休暇取得状況の確認方法

Zion'nexの「タイムカード」をクリック。
年次を取得すると、表示された画面の『届出』欄に【年次】【AM休】【PM休】が表示されています。
今年どのくらい有給休暇を取得したかは、これらをひとつずつ見ていくことで確認できます。
また、毎月部署ごとに、その月の年次取得状況を紙で出しし、各部長に配付しています。

ここだけの話...

年5日の有休取得ができなかった場合、使用者であるいわてリハビリテーションセンターには、従業員1人につき30万円以下の罰金が科せられます。

【編集後記】

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、働き方や暮らし方において、これまでとは違う工夫をしながら過ごしている方がほとんどかと思えます。
自分を労りながら健康に毎日過ごしていけるよう、有給休暇を活用してリフレッシュする時間を作っていきましょう！

WLB推進委員会広報担当：川村、工藤(愛)、阿部(泰)



プラン2：労働時間管理について、職員の意識改善のための取り組みを継続しました

- ・残業要因の検討、残業時間の見える化を行い、タスクシフト、業務改善を行いました

プラン3：計画的な休暇取得のため、取り組みました

- ・自分の有給休暇日数がわかるように、勤怠管理システムの活用について周知しました

プラン4：就業規定の組織内共有に取り組みました

- ・数多い規定の中で要望が多かった休暇について「休暇一覧表」を作成しました
- ・短時間の説明会を開催したり、広報に記事として掲載し周知を図りました

プラン5：腰痛・肩こり予防のために取り組みました

- ・当院の地域支援事業でもある「シルバーリハビリ体操」を、YOUTUBEで配信しました。
- ・医療勤務環境改善支援事業の補助金を申請し、床走行式リフトやマッスルスーツを導入し、車いす移乗時や入浴業務などで活用しています



麻痺が重度かつ体重の重い方の移乗に使用しました。介助する側・される側も安心かつ楽でした。



病棟では入浴の介助の際に着用し、腰への負担が減ったことを実感しました。

☆3年間の活動を通して

1年目の活動により部署間の相互理解が深まり、改善活動の成果を示す事ができました。

2年目は、補助金を活用した腰痛対策を強化しました。

職員のニーズに即した広報によりWLB活動が浸透し、職員からの改善提案が聞かれたり、職員評価制度の創設につながりました。

☆3年間の活動に対し、表彰状とナースそばっちをいただきました



☆専門性の高い職種が、やりがいをもって働き続けられるよう
今後も、活動を継続していく予定です！